

G P R I M E 財務

公共施設マネジメントへの取り組み

～ 施設評価のシステム化構想について～

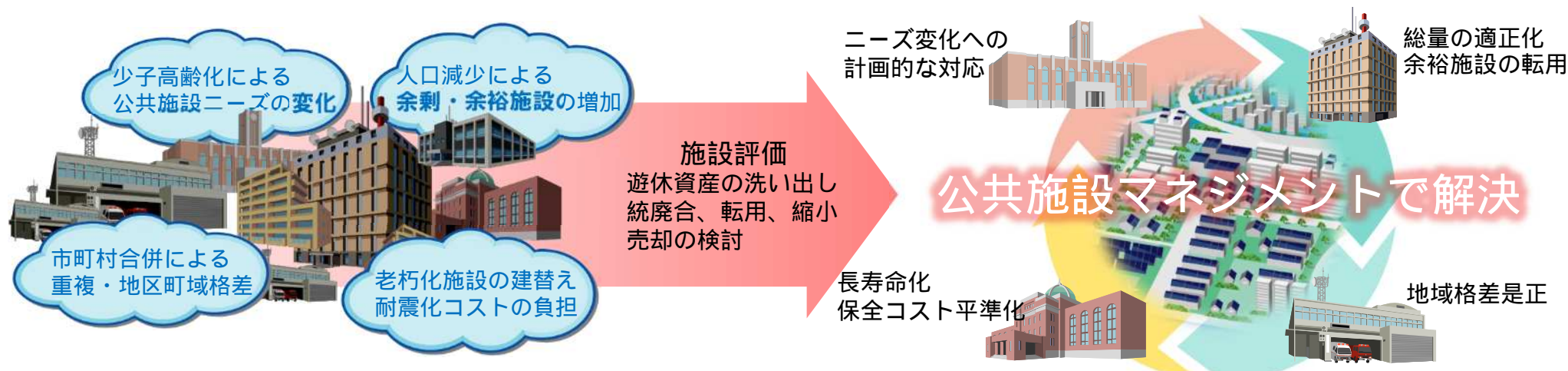
平成25年11月13、14日

日本電気株式会社

1. 行財政改革における公共施設マネジメントへの期待

公共施設マネジメントへの注目度の高まりについて

昨今、全国の地方公共団体は、公共施設の過半数は既に築30年越えとなっており、その建替え・耐震化コストが将来的に大きな負担として見えてきている一方、人口減少、少子高齢化等により様々な課題に直面しています。



その解決手段として、『公共施設マネジメント』の注目が高まっています。

全国における行財政改革取組状況について

平成25年2月8日、総務省は、主な行政改革項目における、全国地方公共団体の取組状況に関する調査結果を発表しました。

その発表によると、行政改革の取組として「資産・施設見直し」に取り組んでいると回答した団体数は、全国で**1273団体**にまで拡大し、前年度と比較して、52団体の増加となっております。

これは、16ある行政改革項目の中で**二番目の伸び率**であり、昨今の注目度の高まりを表しております。

行政改革の取組内容別団体数

主な取り組み内容	都道府県	政令指定都市	市区町村	前年比	
				増分	順位
事務の効率化	45	20	1,400	54	1
資産・施設見直し	46	19	1,208	52	2
住民サービス向上	42	19	1,301	51	3
人材育成	45	20	1,454	48	4
定数管理	46	20	1,553	27	8
事務事業見直し	46	20	1,543	24	11
その他	24	9	252	17	16

平成24年10月1日現在 総務省調べ

2. 公共施設マネジメントへのアクションプラン

1 公有財産台帳の整備(見える化)

公共施設のマネジメントに着手するにあたりまずは、全庁の施設、土地、資産に関する情報を、公有財産台帳として一か所に集める事から始めます。

2 施設評価の実施(量の見直し)

今ある全ての施設について老朽化対策やLCC、CO₂の削減を検討・実行するのは大きな労力がかかります。そこで、まずは施設評価から着手し、総量の見直しを実施します。

3 LCC・CO₂削減、長寿命化(質の見直し)

施設評価にて必要と判断された現存施設を中心に、計画保全、長寿命化を検討し、LCC、CO₂の削減を実現する事が最も効率的なマネジメントとなります。

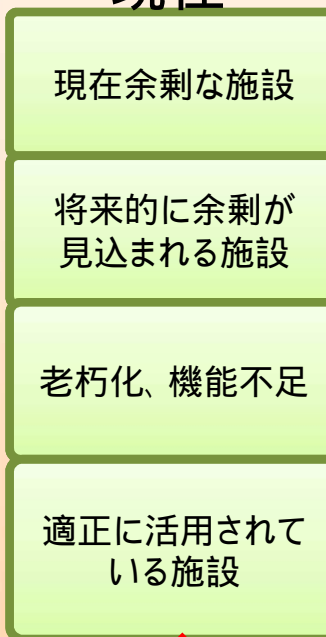
4 定期的な改善(PDCA)

公共施設のニーズは、人口、年齢層のバランス等、時代の潮流により様々に変化していきます。現存施設の位置づけ、将来的に付加が必要な施設とのバランスなど、定期的に台帳最新化と再評価を行うが求められます。

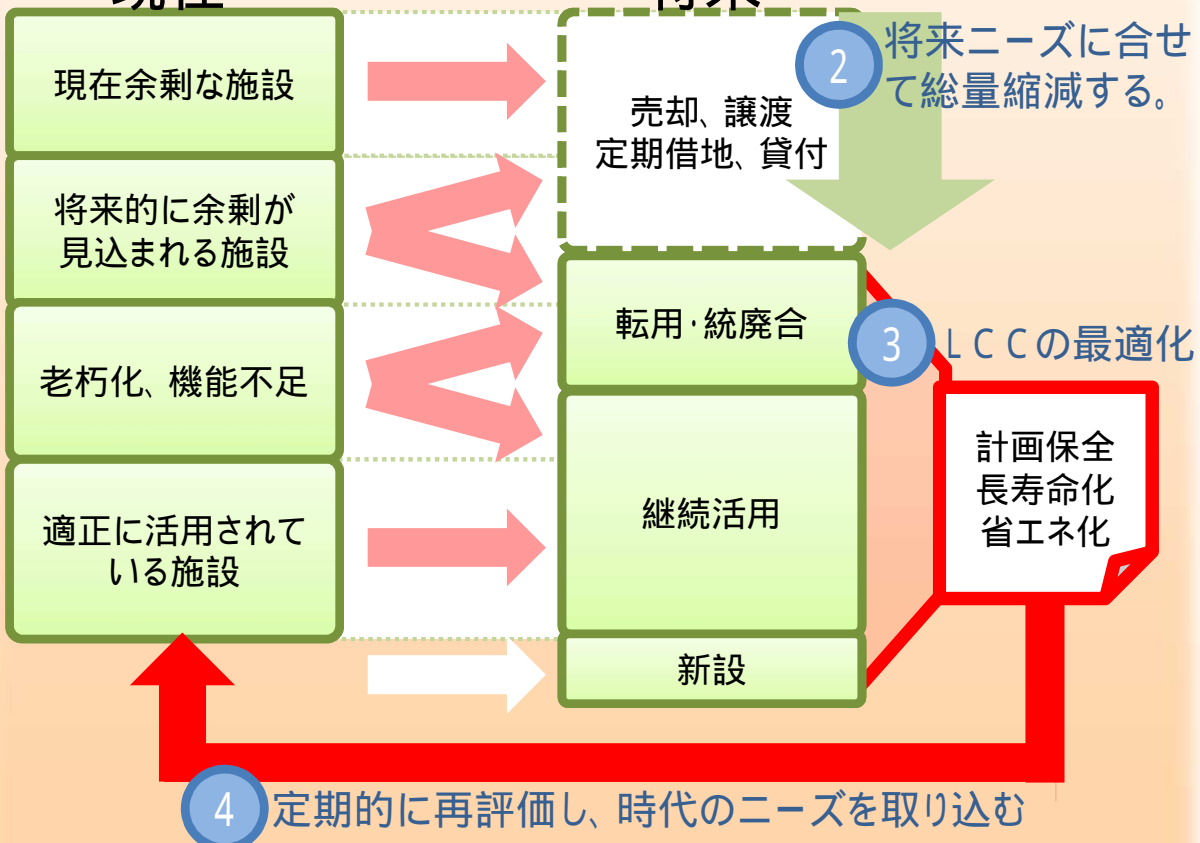
公共施設マネジメントのサイクル

1 全資産を横断的に把握する。

現在



将来



3. 施設評価システム化構想の概要と導入効果

1 施設台帳の見える化と一元管理

- 台帳情報の一元管理により、いつでも全庁的な視点で、最新の公有財産情報を見通す事ができ、余剰・遊休状態となった普通財産をタイムリーに把握できます。
- 機構改革時の所管替の一括更新や、決算調書の作成作業などを正確にワンクリックで実現します。

2 施設の評価情報の登録

- 評価結果の集計、分析を自動化し、関連資料等の管理もできます。
- 経年比較や履歴管理、過去情報の検索を素早く行えます。
- 複写作成や他システム間データ連携により評価入力作業を省力化します。

3 公共施設マネジメントへの活用

- 評価結果を基に様々なポートフォリオをEXCEL形式で出力しますので、ファシリティマネジメント、議会答弁、住民説明、公共施設白書作成等に効率的に活用できます。
- 公開用HPファイルの作成やオープンデータ対応をワンクリックで実現します。

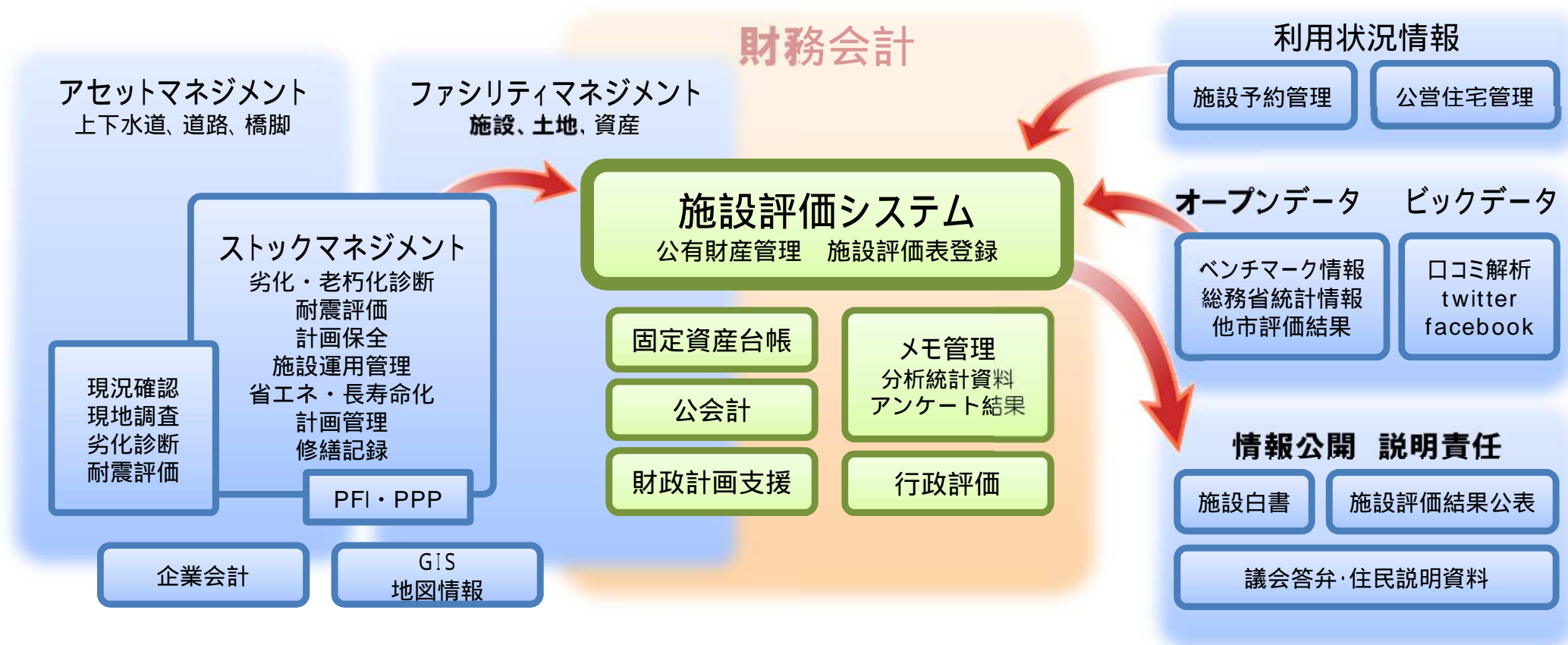


4. 施設評価から公共施設マネジメントへの発展

公共施設マネジメントにおいて、まず最初に取り組むべきは台帳管理の一元化と総量の適正化と述べました。

総量の適正化には、施設白書や評価表を用いて議会や地域住民に具体的な根拠の提示が必要不可欠となります。また、総量適正化の実行には長期的な対応となる事が一般的であり、定期的に台帳情報の最新化を行い、最新の評価結果に基づいて柔軟に対応していくことが求められます。

そのため、定期的な評価作業の負荷を少しでも低減するために、財産台帳と評価表のシステム化は必要不可欠であり、さらにはストックマネジメントシステムや、各種施設管理システムと有機的に連携することで総合的な効率化を目指します。



NECの考える公共施設マネジメントの全体像と将来展望

Empowered by Innovation

NEC